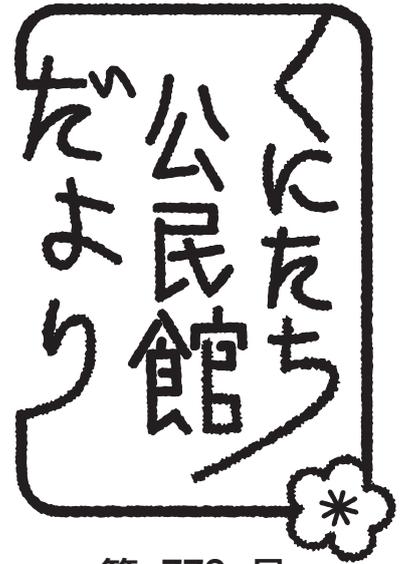


講座参加者の声

公民館では年間を通してさまざまな主催講座を行っています。今回は2～3月に実施した講座に参加された方々に、感想を寄せていただきました。参加していない方にも、講座を通じた学びを味わっていただくと幸いです。



第 772 号

2024年 6月 5日

(令和 6年)

「くにたち公民館だより」

ホームページ▶



発行

国立市公民館

〒186-0004

国立市中1-15-1

TEL 042-572-5141

FAX 042-573-0480

休館日：毎週月曜日

知ることの大切さを学ぶ

安達 規子

3月1日開催（教育講座）
「不登校の子どもに寄り添う」

講師の田嶋大樹さん（東京学芸大学）は、社会的に困難な状況にある子どもたちに対する、学校・家庭・地域における支援の実践研究をされています。この講座は不登校児童生徒の保護者のお話会を開催している市民団体（くにcomm、国分寺の不登校を考える会）にもご協力いただきました。



私は子どもに関わるボランティアをさせていたideているので、それに活かしたいとの思いから、この講座に参加しました。
令和4年度の小中学校における不登校児童生徒は約30万人で、さらに増え続けているそうです。講座では、不登校の定義、不登校を

どうとらえるか、支援の在り方などを教えていただき、後半はグループに分かれて話し合いをしました。その中で、不登校の要因は、個（本人や家族）の問題だけでなく、学校などの環境によるものとの相互作用によって生じた現象であることや、児童生徒に対する必



「子どもにとっての学びの場は、地域に様々ある」

要なフォローは勉強だけではないこと、学校を休んでいる間の子どもの気持ちや、どんな不利益が生じるかなどを学び、具体的な支援方法を教えていただきました。それは、心理的安全性（心身ともに安心してくつろげる場所があること）が不可欠であり、その子の強みを見つけて小さな成功体験を積み重ね、子どもの実態に合わせて心身の回復と自発的な挑戦への橋渡しを行っていくことが大切だということでした。また、不登校の子を支援する場所が学校以外にもたくさんあることを知りました。「児童生徒が学校に登校する」という結果が目標ではなく「社会的に自立すること」を目標とすることが必要と学び、後半のグループの話し合いの中では、不登校のお子さんを抱えている親御さんが、日々の揺れる思い、精一杯の努力や工夫をされていることを話してくださいました。

6月開催 教育講座のご案内

子どもが「学校に行きたくない」と言ったとき、大人ができること

講師 阿部 伸一
(株式会社 REO 代表取締役)

とき 6月8日(土) 朝10時～12時

ところ 公民館 3階講座室

定員 25名(申込先着順)

申込先 電話で公民館へ

講座担当者から

社会問題でもあり地域課題でもある不登校について、保護者や周りの大人ができることを一緒に考える機会にするために、企画しました。

6月8日(土)には、不登校の一步手前の「登校しぶり」をテーマにした講座を開催します。初めての方もぜひご参加ください。

多様性のある社会が大切と言われるようになりましたが、正しい知識や柔軟な考えを持ち、こうあるべきという固定観念や自分の経験値にとらわれない、ましてやそれを人に押し付けたい、そんな自分でありたいと思います。
講師の方のデータを基にした説明はわかりやすく、とても勉強になりました。機会がありましたら、また参加したいと思います。



「教わる」よりも「気づく」が大事

子育てで真つ最中の親として、子どもたちには心身ともに健やかに育ってほしい。演劇教育？楽しんでいただけどんな教育なんだろう、どんな子どもが育つんだろうと興味を持ちました。

今、令和の教室に必要なこと

佐藤 雅昭

2月8日開催 〈ドラマ教育講座〉 「演劇教育って何だろう？」

講師の石井路子さん（ドラマティーチャー、芸術文化専門職大学）は、高校での演劇教育を長く実践し、表現を通して他者との関わり方を教えています。講座前半は令和の教室の現状と演劇教育の目的を学び、後半では実際に授業で行っているワークを体験しました。



しかし講師のお話によると、実際の令和の教室において、それは簡単なことではない。生徒たちの体は使われておらず眠っているし、友達グループが固定化しているし、働ができない、失敗を極力避けるから皆の前で発言するのを避ける。だからまずは、先生が硬直したクラスの雰囲気や解きほぐし、表現しても大丈夫だということをお伝えしてあげることがあるんだそうです。長く高校の現場で、肌で感じてきた先生の語る令和の教室の閉塞感、とてもリアルで衝撃を受けました。そんなところで子どもたちは生き抜いていかなければいけないのか、と震撼しました。



はだしになって、体を動かします。

り、自分の足をマッサージして体をほぐすところから始まります。次はリズムにのせて自分の名前を名乗り、皆が呼び返すコール＆レスポンス。順番がまわってくると次第にプレッシャーを感じるし、名前を呼んでもらえるのとどこかホッとする自分がいました。続いて名前や誕生日の順に一列に並んだり、仮想の地図上に自分の住所を見定め素早く座るゲーム。この辺りから参加者たち、ほじめてつながらが強まってきた感じで、うちは西！青柳！などの言葉を交わして仮想の地図を皆で共有し、心一つに自然と協働していました。終わってみると、心身がほぐされて、温かくて和やかな雰囲気があることにありました。自分は武装解除されて丸腰にされたような感覚になりましたが、そんな飾らない自分をこの集団は受け入れてくれる、そのことがどれほど安心できることか。たった一回でもそう感じるのに、こんな授業を1年間、

やきものは豊かな生活の伴侶者

津田 仁

2月17日、24日開催 〈文化芸術講座〉 「もっとやきものを楽しもう！」

講師の柏木麻里さん（慶應義塾大学非常勤講師）は、出光美術館の学芸員として、陶芸の展示を数多く企画されてきました。第1回では鑑賞のポイントと縄文時代から安土桃山時代までの作品紹介、第2回は江戸時代から近代までの作品と文化史について解説していただきました。



講座担当者から

グループや集団の中でよりよい関係性の構築、協働のためにどうしたらいいんだろう……そういった悩みや疑問をお持ちの方もいらっしゃると思います。そこで、主にコミュニケーション能力の向上を目的とする「ドラマ教育」に着目しました。今回は、子どもたちにとって、安心して自分を表現し、トライアンドエラーをできる環境がどのように構築されるのか知ると共に、「ドラマ教育」の実際に体験する機会になりました。

土曜日の昼下がり、元出光美術館学芸員の柏木麻里講師による講座を受講した。やきものは以前から興味があり日用品のお茶碗から美術品に到るまでいろんな場所で作られたこと。桃山時代に入る

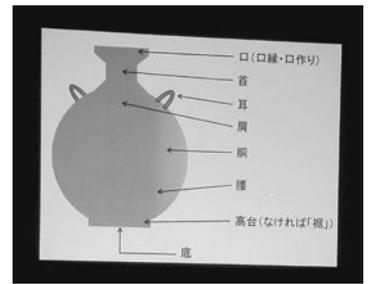
史について話された。歴史上の大きな変貌として、奈良・平安時代に奈良三彩と緑釉陶器が登場、鎌倉・室町時代には中国様式から和様に変化し、やがて六古窯と呼ばれる常滑などでやきものが盛んに作られたこと。桃山時代に入る



美しいやきものの数々が映し出されます

新しい美の創造があり、江戸時代になると磁器が誕生、染付が伊万里で始められ、その後日用品が庶民にも普及し京焼や国焼が日本各地で面として発達してきたこと。最後に近代陶芸はパリの万国博覧会に陶磁器が出品されたのを契機に、個人作家の時代となり、その代表格として板谷波山があげられた。ここで余談だが、柏木講師は以前、出光美術館で板谷波山の回顧展を担当されており、私は偶然にもその展覧会に行き図録を購入していた。この感想文を書いていたらなんと講師の名前が出ていたのでびっくり！今回の講座との不思議な縁を感じた。

次に鑑賞のポイントについて話された。鑑賞にあたっては、やきものの土、釉薬、形、大きさ、厚さ、重さ、文様をみる。そして文様、色彩は社会の中で定められた部分の呼び方は、人のように口、首、耳、肩、胴、腰、高台、底があり、最終的な鑑賞の仕方は、目で見る、手で触れる、口で触れる、重さを感じる、質感を感じる、温感冷感を感じる、音を聴くなど身体感覚を総動員して行うことが求められた。



やきものの各部位の名称

講座担当者から

文化・芸術講座で取り上げるテーマを探していたところ、柏木さんのご著書に出会いました。豊富な知識と、美しいお写真とともにわかりやすく解説してくださり、大変嬉しかったです。引き続き、興味深いテーマを探していきたいと思います。

今回の講座を受講してやきものの奥深さと楽しさを学び、ますます、やきものに興味がわいてきました。

	事業テーマ	開催時期
①現代社会の課題を考える	教育(不登校)	6月8日～
	共生社会(リカバリーの学校)	6月15日～
	人権(ハンセン病)	6月15日～
	環境	7月～
	平和	8月～
	情報科学(AI)	8月～
	近現代史(女性史)	9月～
	健康(スポーツ)	9月～
	多文化共生	9月～
	性教育	9月～
	憲法	10月～
	ドラマ教育	12月～
	ジェンダー(政治経済)	12月～
	福祉教育	1月～
②共生の地域社会を育む	学習支援(LABO ☆くにスタ)	通年開催
	生活のための日本語講座	通年開催
	にほんごサロン/KUNIBO	通年開催
	シルバー学習室	通年開催
	青年室活動(コーヒーハウス)	通年開催
	しょうがいしゃ青年教室	通年開催
	女性のライフデザイン	5月23日～
	親子で遊ぼう考えよう	5月26日～
	男性対象(料理教室)	7月27日～
	若者支援(ユースワーク)	7月1日～
日本語教育入門	1月～	

※内容・時期は変更の可能性があります。

	事業テーマ	開催時期
③まちを知る、地域から学ぶ	緑化活動	通年開催
	公民館70周年プレ企画	4月14日～
	三館連携(図書館・郷土文化館)	8月～
	一橋大学連携講座	9月～
	文学と地域	10月～
	天体観測	11月～
	社会教育学習会	11月～
	自然(野鳥観察)	12月～
	地域防災	12月～
	地域史	12月～
④社会をみつめ、文化をつくる	図書室のつどい	通年開催
	くにたちブッククラブ	通年開催
	映画会	通年開催
	古典	5月31日～
	シネマトーク	6月23日～
	作家と作品(外国文学)	7月～
	文化・芸術	8月～
	哲学	10月～
	食文化	2月～
	身体表現	5月25日～
⑤表現と創作を楽しむ	銅版画	7月～
	文章表現	9月～
	短歌(子育て)	10月～
	市民文化祭	10月～
	アールブリュット	11月～

2024(令和6)年度
公民館講座・催し年間予定

公民館では5つのテーマに基づき、講座を主催しています。毎月の公民館だよりをご確認いただき、ご興味のある講座にぜひご参加ください。

公民館も連携している



「リカバリーの学校@くにたち」が

今年もはじまります！

←「リカバリーの学校@くにたち」特設サイト



↑ダイバーシティサッカーは対話を大切にします

ボールが落ちないように…ダイバーシティサッカーのウォーミングアップから↓



メンタルの不調やしょうがい、生きづらさがあつたとしても、充実した人生を送れるような地域をつくりたい。国立市で2023(令和5)年度から、「リカバリー」と向き合い、しょうがいや生きづらさの有無にとらわれずに学びあう「リカバリーの学校@くにたち」が始まりました。

近年、国立市に限らず、各地で「リカバリーカレッジ」や「リカバリーの学校」という名称で、「対話」や「共同」をキーワードにした学びの場が展開されています。共通するのは「リカバリー」を「回復」という意味だけではなく、生活や就労、学びなどを通じて「私なりに社会参加するプロセス」と捉える視点です。

(共生社会のマナビ) —「リカバリーの学校@くにたち」中間成果報告会— 〈生きづらさ〉からはじまる対話と学び

取り組みの報告：土屋 一登(一般社団法人真山舎)

みんなで語る・リレートーク：

飯野 雄治(リカバリーの学校 調布校)

三谷 宏光

(昨年度リカバリーの学校@くにたち参加者)

関根 義矢(国立市しょうがいしゃ支援課)

槇野 岳志

(DIY工房クミタテ/一橋大学研究補助員)

菊地 宏亮

(国立市公民館コーヒーハウススタッフ)

池田 希咲(bumPo—伴歩—)ほか

「リカバリーの学校@くにたち」の取り組みを関係者が紹介し、参加者と共に「リカバリー」や「キョウドウを生きる暮らし」について「対話」を体験するプログラムです。どなたでもお気軽にお越しください。

※この会は、「リカバリーの学校@くにたち」を運営する一般社団法人真山舎と公民館が共催して開催します。

とき 7月6日(土)朝10~12時

ところ 公民館 地下ホール

定員 40名(申込先着順)

申込先 6月13日(木)朝9時から電話
またはホームページより申込



「リカバリーの学校@くにたち」は、他者との対話を重ねながら地域で共に生きる関係をつくること。「キョウドウを生きる暮らし」をキャッチコピーに、「リカバリー」「ダイバーシティサッカー」「クラフト」「リトミック」の各テーマで学習・対話・交流する講座を実施してきました。

この度、これまでの取り組みに関する中間成果報告会を開催します。どなたでもお気軽にお越しください。共に生きる地域のあり方を一緒に考えられたらと思います。

併せて2024(令和6)年度の各講座は、「リカバリーの学校@くにたち」特設ウェブサイトからご覧いただき、新たに始まる講座へぜひお気軽にご参加ください！



↑リトミック講座で非言語コミュニケーション



※「リカバリーの学校@くにたち」は、一般社団法人真山舎が文部科学省「学校卒業後における障害者の学びの支援推進事業」の委託を受け、国立市公民館のほか福祉事業所などと連携して実施しています。

←富士見台「クミタテ」でクラフト講座



連続講座「リカバリーの学校」の対話時間



対話後にみんなでパチリ！



監督 渋谷実 脚本 松山善三 音楽 黛敏郎
出演 笠智衆、淡島千景、岩下志麻、川津祐介、乙羽信子、
北林谷栄、高峰三枝子、三木のり平 ほか

変わり者の大学教授が巻き起こすてんやわんやの珍騒動を描いて、『隠れた名作』との呼び声も高い松竹人情劇の秀作。

笠智衆が変わり者の大学教授を演じて、小津作品の時とはひと味違う魅力を見せる。特に、人の好い泥棒を演じた三木のり平とのすっとほけたやりとりは秀逸。

監督は『てんやわんや』(1950年)『本日休診』(1952年)など風刺の効いた喜劇に定評のあった名匠・渋谷実。

〈シネマトーク〉

「あるがままの役者ありき 笠智衆」北里宇一郎(脚本家)
上映終了後に、脚本家の北里宇一郎さんに、日本を代表する名優・笠智衆の魅力についてうかがいます。

とき 6月23日(日) 昼2時~(開場1時30分)
ところ 公民館 地下ホール 定員 70名(申込先着順)
申込先 6月12日(水) 朝9時~ 電話で公民館へ
*事前申し込み制となっています。必ず電話もしくは窓口にて事前にお申し込みください。

〈公民館開館70周年プレ学習会〉

70年前のナトコ映写機による映画上映会
—占領期社会教育を振り返る—

映画上映 CIE フィルム『みんなの学校』(1950年/20分)
DVD版『公民館』(1950年/32分)

お話 長澤 成次(千葉大学名誉教授
/国立市公民館運営審議会委員)

「ナトコ映画」とは、第二次大戦後の占領期に「視聴覚教育を通じ日本人の国際情勢に対する啓蒙と日本の民主化をはかるため」(文部次官通達、1948年)上映された民間情報教育局(CIE)の教育映画(約400本)です。アメリカ・シカゴのナショナルカンパニー社製の16ミリ映写機(商品名・NATCO)によって上映されたことから、通称「ナトコ映画」と呼ばれています。

今回は、ナトコ映写機で実写するCIEフィルムと映画『公民館』を鑑賞しながら、「啓蒙」・「民主化」政策の影響を受けた占領期の社会教育について学びます。

これを手がかりに、当時の国立町で盛んに行われてきた映画会などの視聴覚教育の歴史を考えます。

とき 7月2日(火) 夜7時~9時
ところ 公民館 地下ホール
定員 40名(申込先着順)
申込先 6月11日(火) 朝9時~
電話で公民館へ



子ども・若者の「居場所」と「参画」をつくる・支える100の方法

—全国のユースワーカーにあれこれ聞いてみよう!—

お話 今井 直人(元尼崎市立ユース交流センター)
佐渡 加奈子(NPOカタリバ・アダチベース)
青山 鉄兵(文教大学/国立市公民館運営審議会委員)

昨年4月にオープンした矢川プラスは、多くの子ども・若者たちが集う「居場所」として機能しています。また、公民館や地域には、これまでたくさん子ども・若者を支え、共に場をつくる市民の活動が展開され、ひろがってきました。

こうした支援や場づくりが地域に増えるにつれて、それぞれの「場」には、課題も生まれています。たとえば、「小学生は来てくれるけど中高生がきてくれない……」、「他者に迷惑をかける行為にどう向き合ったら……」、「場づくりや運営に子ども・若者自身の意見をどう反映するか……」などなど……。

そこで今回は、全国で活躍するユースワーカーをお招きして、具体的にどんな場づくりや支援をしているのか、「ユースワーク」の実際をあれこれお伺いしたいと思います。どなたもお気軽にご参加ください。若者大歓迎!
*本講座は、公民館と矢川プラスが連携して開催します。

とき 7月1日(月) 夜7時~9時
ところ 矢川プラス 多目的ルーム
定員 30名(申込先着順)
申込先 6月11日(火) 朝9時から電話
またはホームページより申込



〈図書室のつどい〉
めざせ! ムシヨラン三ツ星
—刑務所栄養士、今日も受刑者とクサクないメシ作ります—

講師 黒柳 桂子(管理栄養士・岡崎医療刑務所)

刑務所の食事は受刑者が作っていることをご存知ですか? たまたま転職で刑務所の栄養士になった黒柳さんは、職場でこのことを告げられたとき驚きました。さらに、受刑者に調理を教えるのは自分であることにも戸惑います。

そんな黒柳さんが、刑務所ならではの決まりや予算の制限の中、調理に不慣れな男性受刑者達と、彼らにとって大きな楽しみである食事を作ることに奮闘します。

同じ食事を作る者同士として受刑者と接する黒柳さんの著書からは、刑務所で過ごす彼らとの自然なやりとりや黒柳さんが感じた素直な印象が伝わってきます。

初めは怖いと思った彼らを、これまでの職歴ではなく、何を食べて育ったのかという食歴に今は興味があるとおっしゃる黒柳さんにお話を伺います。

〈黒柳さんの本〉表題作(朝日新聞出版)

とき 7月14日(日) 昼2時~4時
ところ 公民館 地下ホール
定員 70名(申込先着順)
申込先 6月13日(木) 朝9時~
電話またはホームページより申込



〈くにたちブッククラブ〉
—たしかにそこにいた「わたし」のこと—
坂東眞砂子『神祭』 (角川文庫)

講師 **大木 志門** (東海大学・日本近代文学)

とき 6月13日(木)夜7時半～9時半
ところ 公民館 講座室 ※昨年度と部屋が変わります。
定員 30名(申込先着順)
申込先 電話またはホームページより申込
*この講座はあらかじめ作品を読んできて、参加者が「読み」を出しあいます。そのあと講師のお話を聞きます。年間予定など、詳しくはホームページをご確認ください。



第69回くにたち市民文化祭
開催期間が決まりました!

今年のくにたち市民文化祭の開催期間が決まりました。今年には25組を超える団体が参加予定です。文化祭の参加申し込みは、次回実行委員会まで受付していますので、参加希望の団体は公民館にお問合せください。

◆開催期間 10月15日(火)～11月24日(日)

◆実行委員長 佐藤 寛 (総合美術展)

◆次回実行委員会

とき 6月20日(木)夜7時～
ところ 公民館 地下ホール
問合せ 電話で公民館へ



〈図書室のつどい〉

不登校の女子高生が
日本トップクラスの
同時通訳者になれた理由

お話 **田中 慶子** (同時通訳者)

著者の田中さんは、高校時代、不登校になった経験があります。進級・卒業に必要な出席日数をかろうじて満たし、高校卒業後、劇団研究員やNPO活動を経て、一念発起してアメリカの大学に入学しました。努力と苦労を重ねて大学を卒業し、帰国後はNPO法人や外資系通信社などの勤務や同時通訳の勉強をされ、フリーランスの同時通訳者となりました。

小学生の頃から集団行動に違和感を覚えながらも学校生活を送っていた田中さんに、小中高生時代の苦悩、英語と格闘した留学生活、同時通訳者になるまでの道のり、同時通訳者として心掛けていることなどをお話いただきます。先の見えない不安や焦りがあっても、目標や希望を持って生きることの大切さを学ぶ機会にしたいと思います。

<田中さんの本>表題作(KADOKAWA)、『新しい英語力の教室 同時通訳者が教える本当に使える英語術』(インプレス)

とき 7月20日(土)朝10時～12時
ところ 公民館 地下ホール
定員 70名(申込先着順)
申込先 6月18日(火)朝9時～
電話またはホームページより申込



〈人権講座〉

ハンセン病患者・回復者の多彩な文芸活動

ハンセン病は感染力の極めて弱い病原菌(らい菌)による感染症で、既に薬と治療法が確立された完治する病気ですが、患者や回復者に対する不当な隔離政策が助長・作出した偏見や差別は長く続き、それは現在も続いています。

本年度、国立市公民館では、ハンセン病患者・回復者の多彩な文芸活動に焦点を当て、改めてハンセン病を学び、人権について考える連続講座を実施します。

●連続講座① **一絵ごころでつながる—**
多磨全生園絵画の100年

講師 **吉國 元** (国立ハンセン病資料館学芸員)

国立ハンセン病資料館※(東村山市)を訪問し、現在実施中の企画展を見学します。担当学芸員の方のギャラリートークの他、多磨全生園における絵画活動等と関連する文芸についてお話を伺います。

とき 6月15日(土)朝10時～12時(現地集合・解散)
ところ 国立ハンセン病資料館(東村山市青葉町4-1-3)
西武新宿線久米川駅北口よりバス20分
定員 30名(申込先着順)
申込先 6月7日(金)朝9時～
電話またはホームページより申込



●連続講座② **ハンセン病歌人・明石海人の生涯**

講師 **松岡 秀明**(東京大学死生学・応用倫理センター)

「長寿を保ったら昭和時代を代表する大歌人となった」と大岡信に言わしめた明石海人は、ハンセン病を患い過酷な運命に苦悩しながらも、その壮絶なる境涯を短歌に詠みました。遺された数々の作品を通し、海人の生涯についてお話を伺います。

とき 7月7日(日)朝10時～12時
ところ 公民館 講座室
定員 30名(申込先着順)
申込先 6月14日(金)朝9時～
電話またはホームページより申込



※国立ハンセン病資料館は、ハンセン病患者・回復者が自らの生きた証を残し、ハンセン病に対する誤解と偏見が繰り返されないことを願い、国立療養所多磨全生園の隣接地に設立された「高松宮記念ハンセン病資料館」が2007(平成19)年にリニューアルされたもので、昨年、開館30周年を迎えています。

新しい発行物のご紹介

公民館の取り組みをまとめた冊子ができました。お読みになりたい方は公民館へお問合せください（配布数に限りがあります）。ご覧いただき、ぜひ今年度の取り組みにご参加ください。

くにたちブッククラブ 『記憶の欠片をひろい集めて』

くにたちブッククラブでは、毎年講習終了後に参加者による手作りの文集を作っています。文学作品を共同で読むことで深められた読みや気づきが綴られています。

講師の小平麻衣子さんによる講義録「小川洋子『約束された移動』を読む」も掲載しています。

『第68回 くにたち市民文化祭 記録集— 出会い！発見！新たなエネルギー—』

2023(令和5)年度の文化祭に参加した団体が催しの成果を報告しています。市内で文化・芸術活動をしている方々の、文化祭での写真も多く載っています。



こちらの発行物は公民館ホームページ「近年の公民館実践記録冊子の紹介」からも、ご覧いただけます。



2023(令和5)年度 公民館の施設利用状況について

公民館は社会教育施設として、市民等で構成されるグループや団体に会場を無料で貸し出しています。活動目的や人数に応じて、大・中・小の集会室、講座室、ピアノのあるホールと音楽室、調理のできる実習室、着付けや茶道のできる和室の8つの部屋があります。なお、和室では机と椅子を使用し、実習室では間仕切りを活用すれば、小さな会議室としても利用できます。

■令和5年度時間帯別会場利用率(単位%)

会場 (定員)	ホール (85名)	音楽室 (20名)	集会室 (30名)	講座室 (35名)	中集会室 (20名)	小集会室 (10名)	和室 (20名)	実習室 (10名)
	時間帯							
午前	92.0	88.8	71.9	80.9	77.7	64.9	67.7	60.9
午後	90.8	83.1	77.6	79.9	81.4	64.1	70.0	59.5
夜間	91.8	71.5	49.3	38.0	42.4	31.4	42.6	15.3

(注)利用率の算出処理上1日の利用時間を、午前・午後・夜間の3区分に整理。1区分に複数回の利用があっても1回分の利用とみなして回数を算出し、この数を年間延べ開室回数で割り、利用率を算出している。

ホールの利用率は平均91.2%と最も高く、次に音楽室が平均78.9%、続いて、中集会室、集会室、講座室、和室、小集会室、実習室の順となっています。新型コロナウイルス感染症の影響等により低迷していた会場全体の利用率は63.7%となり、前年度の63.2%から若干増加しました。

公民館運営審議会報告

5月14日(火)第34期第19回定例会を開催。委員14名、館長、職員2名出席。傍聴人5名。

前回議事録確認 議事録修正あり

報告事項
公民館だより編集研究委員会報告。特集記事は参加者の声の字数が小さくて読みにくいとの声あり、工夫が必要。会場調整会の記事は双方向性がみられた。

社会教育委員の会は答申作成に向け活動中。

東京都公民館連絡協議会より定期総会の報告。令和6年度は清水館長が研究大会事務局長となり国立市で開催する。都公連は任意団体であるが、今後も研修実施・情

報共有の貴重な場と捉え参画する。その他、公民館職員体制の充実等に関する要望書について市長・教育長と面談を行い、ICT体制も含めて一定の理解を共有した。

審議事項
諮問「公民館の運営や事業に『市民の声』を活かしていくための方法や工夫について」の審議。インタビュートークより11名の市民の方のインタビューが終了し、公民館未利用者との接点を探るべく、インタビュートークを吟味していく。

アンケート班は公民館職員のヒアリングを終了し、項目別に文章化する。今後答申書の構成案を再度整理し、議論する。

次回6月11日(火)夜7時15分から講座室。傍聴歓迎。(望月)

—8月(ロビー9月分) 会場調整会のお知らせ— 会場が地下ホールから 3階講座室に変わります

申込書のポスト投入期間	6月1日(土)～27日(木)
公用使用の貼り出し	6月11日(火)頃
予約の重なるのあった団体の掲示開始日 (国立市 HP にも掲載)	6月29日(土) ▶重なり状況 
会場調整会	7月6日(土)朝10時～

※会場調整会は朝10時までに受付を済ませてください。

今月の公民館 (6月~7月)

- 6月8日(土)朝 教育講座「子どもが『学校に行きたくない』
と言ったとき、大人ができること」
- 13日(木)夜 ブッククラブ 坂東眞砂子『神祭』
- 15日(土)朝~ 「ハンセン病患者・回復者の多彩な文芸活動」
- 15日(土)昼 共生社会のマナビ「私たちはなぜ
『生きづらい』のか—民俗学から考える—」
- 23日(日)昼 CINEVOX・シネマトーク『好人好日』
- 7月1日(月)夜 矢川プラス「子ども・若者の『居場所』
と『参画』をつくる、支える100の方法」
- 2日(火)夜 公民館開館70周年プレ学習会
「70年前のナトコ映写機による映画上映会
—占領期社会教育をふり返る—」
- 6日(土)朝 「リカバリーの学校@くにたち」中間成果報告会
「〈生きづらさ〉からはじまる対話と学び」
- 14日(日)昼 図書室のつどい『めざせ!ムショランミツ星』
- 20日(土)朝 図書室のつどい『不登校の女子高生が
日本トップクラスの同時通訳者になれた理由』

講座の開催状況などに変更があった場合は、公民館入り口付近への掲示や、ホームページでお知らせします。ご不明の点はお問合せください。

公民館 ☎042 (572) 5141



講座等の案内▶

「楽しい夏のイメージをきりがみアートしよう」予約不要、ことも300円大人500円。三歳から年配の方までどなたでも。心豊かに集中できる時間となります。

日時 6月23日(日) 昼1時半~
場所 矢川プラス多目的ホール(小)
連絡先 立岡090(8108) 1800

izee(いーぜ)

第18回作品展を開催いたします。主体美術協会々員の有馬先生ご指導のもと「自分らしい絵を」をモットーに日々楽しみながら描いております。どうぞご覧ください。

日時 6月15(土)~22(土)、17(月)休館
場所 公民館 市民交流ロビー
連絡先 吉田042(525) 5930

水彩画「パレット」作品展

第18回作品展を開催いたします。主体美術協会々員の有馬先生ご指導のもと「自分らしい絵を」をモットーに日々楽しみながら描いております。どうぞご覧ください。

日時 6月15(土)~22(土)、17(月)休館
場所 公民館 市民交流ロビー
連絡先 吉田042(525) 5930

テニス会員募集「DMTC」

男女問わず経験のある方一緒にゲームを楽しみませんか。20~50歳代、国立市在住の方大歓迎。楽しみながら健康管理にもなります。お気軽に体験にお越しください。

日時 毎週土日祝中心に午前2h
場所 谷保、矢川、広場コート
連絡先 佐藤090(6562) 9175

ひろば



くにたちJFCメンバー募集

サッカーをやりたい小学生、募集します。見学・体験もできます。お申込み・お問合せはお気軽に下の二次元コードから。

日時 毎週土曜と第1・3日曜午後他
場所 市内一小と六小校庭他
連絡先 小池090(1704) 4231



「KSC」水泳会員募集

国立スイミングクラブでは初級から上級まで、年齢も泳ぎのレベルも幅広い世代が楽しく泳いでいます。ぜひ一緒に楽しく泳ぎましょう。体験は無料です。

日時 毎週火曜日 夜8時~9時
場所 総合体育館室内プール
連絡先 北080(3458) 6994

歌サークル「すみれの会」

楽しく歌って心と体を元気にしませんか。季節の歌や童謡、歌謡曲などを素敵なピアノ伴奏で歌うサークルです。初回は無料です。お気軽にご参加ください。

日時 第2金曜日朝10時~11時半
場所 南市民プラザ多目的ホール
連絡先 川端050(5858) 7579

〈サークル訪問392〉 リトミックサークル 「いちごみるく」

公民館の地下ホールに軽やかなピアノの音が鳴り始め、10組ほどの母と子が集まってきた。「まあるくなくれ、小さくなあれ」「せんせいとおともだち、あいさつしよう、こんにちは!」主宰者のサクマさんは歌いながら、「ママとお手々つなげるかな」「お手々をパッ!」などと子どもたちに声かけをしていく。子どもたちは音に合わせて嬉しそうに駆け回ったり手を広げたりする。

次はフィルムケースにおはじきを入れた手作りのマラカスを持って、音に合わせて頭の上でお星さまのように「きらきら」と振る。ピアノが止まると静かにし、また音が鳴ると「きらきら」と振る。今度は音階に合わせて、結んだ両手をお腹の前でぐるぐる回す。

「ちょうちょ」の歌では、親子で手をつないで「きれいな羽でお散歩に出発して下さい!」ピアノが止まるとピタッと止まる。そのたびに子どもたちは笑ってしまう。「お花が笑った」の歌では、大きなお花は「ワァッハッハァー」小さなお花は「うふふ」と、両手を広げて左右に揺らしながら笑う。「今日も楽しくニコニコ笑顔。」



リズムに合わせて、びよんびよん嬉しそう

場所 公民館 地下ホール
連絡先 サクマ seminarum@hotmail.co.jp
会費 1500円/回
〈文・写真 錦田 美緒〉

さよなら、さよなら、また今度♪最後にカードに参加シールを貼ってもらい、おしまいとなる。サクマさんは幼いころから音楽と子どもが大好きで、リトミックの講師になるための学校に通ったとのこと。リトミックはリズム感覚を養っていく音楽教育の一つ。幼児期の情操教育にもなり、音楽的センスや四肢のバランスが培われる。幼児期は体で感じると同時に、それを豊かに表現する。そこに幸せを感じ、心身の解放につながるそう。走り回る子どもたちの表情はいきいきしていた。

日時 月2回水曜日
昼2時20分~4時30分等